

08
August

RESULTS JAPAN ANNUAL ACTIVITY REPORT



平成31年度
事業報告書

日本リザルツ 令和2年2月21日作成

2019 年 08 月 01 日

新聞切抜作業

ボランティアの業務の一つとして新聞の切抜作業があります。個人的には好きな業務の一つです。業務に関わる新聞記事を切抜、台紙に貼り付け、項目ごとに分けてファイリングします。



このところ、他の業務に追われ、新聞切抜作業が滞っていましたので、本日は半月分以上の新聞を纏めて一気に切抜作業を行っています。

2019 年 08 月 04 日

エボラ感染疑いの女性は陰性

標記について報道（朝日新聞 DIGITAL：8 月 4 日 16 時 6 分）が、下記の通りありましたのでお知らせします。

「厚生労働省は、4 日、エボラウイルスに感染している可能性があった埼玉県の 70 代女性について、検査の結果、感染していないことが確認されたと発表した。女性はエボラ出血熱が広がっているアフリカ中部のコンゴ民主共和国から帰国後、高熱を発症したため、国立感染症研究所が女性の検体を調べていた。女性は滞在先の同国から 7 月 31 日に帰国。自宅に戻った後も体温を毎日 2 度測って検疫所に伝えてもらうなど健康監視をしていた。女性は今月 3 日朝、体温が 38・2 度になり、同日夜には 39・2 度まで上昇。4 日朝に東京都内の医療機関に入院した。迅速検査では、インフルエンザ A 型が陽性で、マラリアは陰性だったという」

新ユニット結成

日本リザルツケニア事務所で新たなユニットが結成されました。シブがき隊？少年隊？...ではなく、悪ガキ隊です。でも、やっていることは健全です。週に2回、カンゲミヘルスセンターの掃除をし、月に一度、ナイロビカウンティと一緒に清掃活動を行っています。メンバーのデニスさんとジェーモーさん。ごみ拾いを一生懸命やってくださいました。



一方、カンゲミヘルスセンター内は、施設でセンターをきれいにしようという動きが強まっています。センター長のシェムさんの指示のもと、この日も朝一番で掃除が行われていました。これまでヘルスセンター内では食べ物やお菓子の食べ残しや包装のゴミ捨てが目立っていました。そのため、館内の決められた場所で飲食を行うようチラシが設置されました。みなさんの意識を変えられるよう頑張ります。



2019年08月09日

国際連帯税シンポジウム写真集

国際連帯税シンポジウムについての先日の記事で、革新的資金調達に関するリーディング・グループのサイドイベント等への学生代表の派遣について書きましたが、その学生代表3名が決定しました。さらに嬉しいことには、この構想に共鳴していただいた方がスポンサーになってくださり、別枠でもう1名が派遣されることとなりました。先日の記事でも写真を掲載しましたが、少し違った視点の写真もご紹介します。





GGG+フォーラムへの参加者

8月29日(木)に開催される GGG+フォーラム@TICAD7 の第3部（アフリカ健康構想とアフリカの UHC）にリザルツ事務所の一画で活動されている「一般社団法人 家族のための ADR 推進協会」（離婚テラス調停センター）の小泉道子さんが参加される予定です。

小泉さんは、SDGs の目標の一つである女性と子どもたちの幸せをアフリカの人たちと連携するために何をすべきかを発言する予定です。



2019 年 08 月 11 日

きのことかめ（折り紙バージョン）

ケニア保健省の医師部門のトップである Dr.Pacifica Onyancha の体調がすぐれないということで、お見舞いのために久しぶりに折り紙をしました。

いつも鶴なので、今回はニックネームにちなんで、かめを折りました。相棒のきのこも折ってみました。折り紙のきのこかめの探偵団です。



TICAD 7 はもうすぐ！

今月末は TICAD 7 です。東京オフィスでもサイドイベントである GGG+フォーラム TICAD 版を開催するための準備が着々と進んでいます。そうした中、田中明彦 JICA 前理事長が読売新聞に TICAD について寄稿されていたので、ご紹介させていただきます。

今回の TICAD 7 でどのような議論がなされるのか、リザルツも注目しています。



2019 年 08 月 12 日

コンゴ民主共和国東部における エボラ出血熱の流行に対する 調査チームの派遣（8 月 10 日）

WHO のテドロス事務局長は、7 月 17 日、コンゴ民主共和国に広がったエボラ出血熱について「国際的に懸念される公衆衛生の緊急事態」を宣言（所謂 P H E I C（フェイク））しています。先週は、コンゴ民主共和国から帰国した女性がエボラ熱感染の可能性があります、緊急の検査等の対応を行った結果、幸いなことにエボラ出血熱の感染は確認されませんでした。こうしたことから、8 月 5 日、総理官邸で、「エボラ出血熱対策に関する関係閣僚会議」が開催されました。今回、P H E I C 宣言を踏まえた水際対策の強化等により、迅速な対応を行うことができたが、引き続き、政府一丸となった危機管理体制を万全なものとするのが極めて重要、としています。

こうした中で、JICA は下記の通り、専門家による調査チームを派遣することとなりましたので、情報を共有致します。なお、別途、日本リザルツに入っている情報では長崎大学の山本先生は既にキンシャサ入りされているとのことで、8 月下旬まで活動される予定とのことです。

コンゴ民主共和国東部におけるエボラ出血熱の流行に対する調査チームの派遣

2019 年 08 月 09 日

今般、JICA は日本政府の決定を受け、8 月 10 日から、コンゴ民主共和国東部におけるエボラ出血熱の流行に対し、下記のとおり、調査チームを派遣します。

記

1 背景

コンゴ民主共和国ではエボラ出血熱の流行が確認されており、WHO は 2019 年 7 月 17 日、今次流行について、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）を宣言しました。WHO のまとめによると 2018 年 7 月以降、2019 年 8 月 4 日時点で、死亡者 1,849 人を含み 2,763 名の症例（疑い症例を含む）が報告されています。

2 対応

感染症専門家、外務省、JICA から成る調査チームを 8 月 10 日から同国へ派遣し、現地の支援ニーズを調査するとともに、同国政府や国際機関等との協議等を踏まえ、今後の支援の可能性について、調整を進めていきます。

2019 年 08 月 15 日

分身ロボット

8 月 11 日(日) の日本経済新聞に”分身ロボット”の記事が掲載されましたので紹介します。

この”分身ロボット”は、OriHime(オリヒメ)という名前で、開発者の吉藤健太朗さんが、ご自身の不登校や入院の経験から開発されたものです。オリヒメは、日本リザルツが 2015 年 12 月に行った ALS の会合で患者さんのかわりに参加したことがあります。



2019 年 08 月 16 日

G G G + フォーラム @TICAD7

8 月 29 日の G G G + フォーラム当日まで、いよいよ 2 週間を切りました。登壇者や内容についてもだんだん確定してきています。今日時点での開催概要(案)を下に載せます。

なお、当初予定していた定員は既に埋まっている状況ですが、8 時間にわたる催しですので、どうしてもという方はまだ受け付けられる状況です。

※応募者多数の場合、一部立ち見となってしまう可能性がありますことをご了承ください。



2019年08月17日

人事異動

8月16日付で駐英公使に財務省の官房参事官だった中村稔氏が就任することになりました。尚、前駐英公使は白須の友人である飯田慎一氏で、現在は駐米公使をされています。

2019年08月18日

魔法の LAMP アドボカシー

TICAD 7 まで残り 2 週間を切りました。会議に向け、アフリカ諸国、ケニアでも様々な詰め協議がなされています。栄研化学の木内様がケニアにお越し下さり、アドボカシーを実施しております（現在進行形）。

シシリー保健省長官と。「こんにちは！」と声をかけられました。日本語もお上手です。

ケニアの鈴木康裕医務技監こと、パシフィカ・オニャンチャ博士。

体調を崩されていた折に、かめの折り紙と花束を持って行ったことを覚えていて下さっていました。

特に、かめの折り紙はケニアになく、印象的だったようです。



スーザン・モナーク事務次官（右）とパシフィカ博士と。
今回のアドボカシーに一番お力添えをいただいています。
頭はクール、心はホットなスーザン事務次官のすっかりファンになりました。
魔法の LAMP のケニア普及に向けたアドボカシーは週明けがいよいよ大詰め。出来る限りサポートしていきたいと思っています。



2019 年 08 月 22 日

最近の新聞記事

ボランティアの業務の一つとして新聞切抜作業をしていて最近目に付くのがアフリカに関する記事です。来週開催される TICAD7 に向けて特集されているようです。
記事を読んでいるとアフリカではまだまだ貧しい人が多く、今日、明日の食べ物に事欠く人達が多くいる事を改めて知りました。
リザルツは貧困問題の解決を目指してアドボカシー活動を行っていますが、難しい問題であることを再認識しています。

「G G G + フォーラム @ T I C A D 7」が間近です

8 月 29 日の G G G + フォーラムまであと一週間、少しずつ緊張感が高まってきます。今年の G G G + フォーラムは T I C A D 7 との併催です。ということはアフリカが主役であり、第 2 部、第 3 部もアフリカがメインテーマとなっています。第 2 部は「アフリカ栄養改善」、第 3 部は「アフリカ健康構想とアフリカの UHC」となっています。さて、どんな議論が闘わされるのでしょうか。



こうした中で、日本リザルツには相変わらず日本各地から企業始め、多くの方々が訪問されています。スナップ写真をご覧ください。皆さん話が進んだのでしょうか、楽しそうですね！

2019 年 08 月 23 日

IFPRI(国際食糧政策研究所)による TICAD7 サイドイベント

日本リザルツの栄養改善への取組みにご協力をいただいている、IFPRI(国際食糧政策研究所)が TICAD7 のサイドイベントを行います。ご関心のある方は、ぜひご参加ください。
なお、事前登録はなく、直接会場へお越しください。

アフリカの食料栄養問題解決に日本の先端技術とノウハウは有効か

2020 年栄養サミットを見据え、アフリカでの包括的な食料栄養問題解決のために栄養により配慮した安全・健康・効率的な農業食料システムの構築を目指すとき、日本の先端技術・ノウハウは如何に有効か、その導入可能性とインパクトについて議論する。具体的には、資源節約集約的野菜生産、市場志向的農家経営、コールドチェーン、食料ロス、食料消費行動変容といったトピックを取り上げ、最新の事例を紹介、セクター間の連携促進を狙う。

8 月 27 日 (火) 13:00 – 14:30

パシフィコ横浜 アネックスホール F205/206

具体的には以下のトピックを取り上げ、実際に現場で活動している日本企業や NGO の方々を招待し実際の経験をシェアして頂き、議論したいと考えております。

革新的技術・ノウハウを活用した野菜生産とマーケティング (カゴメ、JICA)

再生可能エネルギーとコールドチェーンによる 食料ロス削減と栄養改善 (コールドハブ、ダイキン、パナソニック)

日本の伝統的魚加工技術による栄養改善と女性エンパワーメント (海の国)

学校と市場を介した子供の栄養改善 (国立環境研究所、味の素財団)

2019 年 08 月 27 日

TICAD 7 IFPRI Side Event

GGG+フォーラムより一足早く、本日、8月27日にイフプリ主催のセミナーが、TICAD・サイドイベント会場（「アネックス」E）で開催されました。東京では GGG+フォーラム準備の真最中ではありますが、日頃から、また今後の日本リザルツとイフプリとの関係強化の視点もあり出席させて頂きました。因みに、会場の「アネックス」は、天井が高い、一見するとホテルにも似た風情の落ち着いた会場です。長テーブル3席の椅子が並べられ、総数200人収容ということで、全体としてはゆったりとした会議風景でした。アフリカ農業・栄養に関する大学の講義風景そのものでした。これも経済研究機関であるイフプリらしさといってもいいでしょう。

筆者は、旧知のイフプリの日本本人研究者である山内氏にいち早く会うことができました。程なく前 JICA の IFNA 創発者の E 氏も見え、今日のプログラムについて主催者トップによる打ち合わせが始まりました。筆者は、場外で入室状況を確認し、イフプリに興味ありそうなアフリカ人に声掛けなどしました。偶然にもガーナ大学の農業経済学部の Jatoe 博士と会い、味の素の KOKO プラスの状況などが議題になると伝えたと出席したいということで、早速山内氏を紹介、Jatoe 博士は小生について No2 の出席者となりました。名刺交換をし、29日のGGG+フォーラムでの栄養セッションの紹介も欠かしませんでした。

全体的には、30分前には人影がなく心配しましたが、始まってみると100名近い人が熱心にプレゼンターの発表に耳を傾けていました。客層は、議員、政府関係者等ハイレベルの出席者はみられず、殆どが、研究者、専門家の方々と見受けられました。全体プログラムは、iPhoneに保存してあるので後日整理分析してみたいです。気になるトピックスは、学校及び市場を媒体とする子供の栄養改善（国立環境研究所及び味の素ファンデーション）栄養価の高い野菜（カゴメ社：セネガル）、栄養と女性のエンパワーメントを強化する魚の「すり身」（NPO 法人海のくに・日本）でした。

Goal : Are Japanese advanced technologies and know-how effective to address food and nutrition challenges in Africa?

答えは勿論 Yes！！これを機会に、事業の partner となるべき民間企業、NGO がこの課題に果敢に challenge してもらいたいものです。今後の課題は、総括発言者の E 氏によれば、How to scale up です。イフプリと日本リザルツの連携強化がぐっと高まった半日でした。さて、明日早朝から GGG+フォーラム準備作業です。暑さに負けず頑張りましょう。



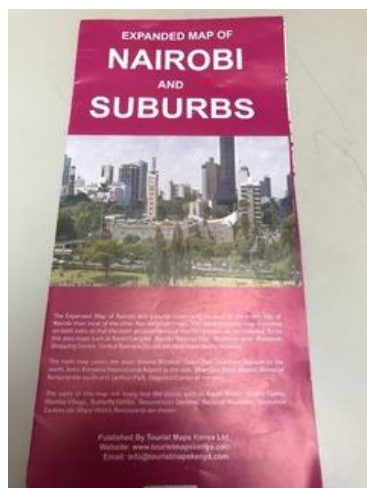
ナイロビの地図

最近、タクシーの運転手さんに道案内をすることが多いため、ナイロビの地図を買いました。ケニアは車社会です。Uber と呼ばれるアプリケーションがあり、それを使って簡単にタクシーを呼ぶことができます。行きたい場所の名前さえ打ち込めば、GPS で今いる場所と到着地までのルートを検索し、配車をしてくれます。治安が悪くて、外を歩くのが危ないからかもしれませんが、機能は日本より発達しているかもしれません。ただドライバーさんも様々。気をつけていないと、遠回りをされたり、別の場所に連れていかれたりという問題も生じます。地図で道路を把握していれば、トラブルも減ります。

地図の全体はこんな感じです。

実際に使ってみると、地図にない道がたくさん。

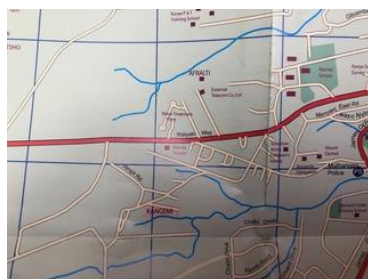
そう、今ナイロビは道路建設ラッシュなのです。特に中国企業の支援で作られているバイパスがどんどん増えています。



活動を行っているカンゲミ周辺はこんな感じ。

実際は地図にない細かい道がいっぱいあります。

ちなみにタクシーの運転手さんは、カンゲミヘルスセンターなどの病院や商業施設に行くのは慣れていますが、官庁に行くのはあまり得意ではないようです。名前が紛らわしく、皆さんあまり行かないからだそうです。しかも、ケニアは、日本と違って個別の施設に詳細な住所(番地など)がありません。道と建物の名前だけ



を頼りに目的地に向かわないといけません。

特に筆者がよく行く保健省と外務省は、「どこ？」となり、詳細な道案内が必要です。

道案内のスワヒリ語ができるようになり、ますます遅しくなりそうです。

2019 年 08 月 30 日

Gavi CSO 会合

本日、横浜ベイシェラトンにおいて開催された、Gavi ワクチンアライアンスと CSO（市民社会組織）との会合に出席しました。Gavi ワクチンアライアンスからはセス・バークレー事務局長やギアン・グロッソ部長が出席され、市民社会からはグローバルシティズンの清野紫苑氏や国境なき医師団の金杉詩子マネージャーなどが出席されました。

（非常にクローズドな雰囲気での会合で、写真を撮っていませんでした）

バークレー事務局長のお話の中で、日本の Gavi への拠出は予想通り "modest(控えめ)" という評価でした。

日本政府が国際保健や UHC の重要性をよく理解しているにもかかわらず、予防接種が UHC の基礎をなすものという認識があまりなく、予防接種をあまり重要視していないということが問題で、それを変えていかなくてはいけないということを告げられました。

これから政府への働きかけを行っていく上で、そのようなことも念頭に入れながら活動を工夫していけるといいのではないかと思います。

令和、TICAD7 飴

遅くなりましたが、TICAD7 での金太郎飴本店、五十鈴商事、日本リザルツによる令和飴、TICAD7 飴ブースのご紹介です。





なんとブースに河野外務大臣がいらしたそうで、飴の配布が翌日からとお伝えしたところ、明日またいらっしゃるとおっしゃったそうです。皆で TICAD を盛り上げていきます。

「第三文明」に連帯税シンポジウムの 記事掲載

7 月 24 日に開催されました「SDG s 達成のための国際連帯税を実現するシンポジウム 2019」の記事が「第三文明」2019 年 10 月号に掲載されましたので紹介いたします。



尚、議事録も先日完成いたしました。



2019 年 08 月 31 日

TICAD7 公式サイドイベント見学

GGG+フォーラムが無事終了し、30日には他のサイドイベントを見に行きました。
普段からお世話になっている方々や、GGG+フォーラムでご登壇いただいた方々のブースがあちこちにありました。

サンキューセミナーで講師をしていただいた、山本太郎教授がいらっしゃる長崎大学のブース。海外における活発な活動を紹介していました。



JICA のブース。今回の GGG+フォーラムでは、戸田上級審議役と山田上級審議役に司会やパネリストとして大変お世話になりました。



栄養改善のための農業・食料システムに関するグローバル・パネル、アフリカ開発銀行、栄養分野におけるアフリカのリーダーのブース。第2部の栄養セッションにおいて、パネリストとしてご登壇いただきました。



UNHCR のブース。第3部において、フィリッポ・グランディ高等弁務官からご挨拶をいただきました。



WFP のブース。デイビッド・ビーズリー事務局長にご挨拶をいただきました。



前日に GGG+フォーラムを開催したブース。当たり前のことですが、別のイベントが行われているのを見て不思議な気分になりました。



今日開かれているセミナーは、ビジネス関係のものが多く感じられました。その中で、スタートアップ企業関連のものや、プログラミングのワークショップなどを見て、山本太郎教授と井上肇局長をお招きしたサンキューセミナーで議論されていたリープフロッグというのは、このことだったのかなと思いました。